

DAY4

STAGE5

タイム アタック

in TIサーキット 英田

マシンセッティング
の完成度が、
如実に現れる

サーキット・タイムアタック。
が、ウレをかかれた
ウェットコンディションには、
チューナーの経験度で勝負。
走り込みに賭ける!!

TIサーキット
英田コース図



コース全長:3702m
コース幅:12~15m

みんな知っているとおり、TIサーキットは'94年はF1も行われたコースだ。ふだつのストレートとテクニカルな低速、中速コーナーで構成されていて、走ってみるとめちゃ面白いのだ!

取材協力: TIサーキット英田 ☎08687-4-3311

ガビーン!? なんとウェットだッ! やっぱ路面は乾かなかったか。昨日は夕方からだいぶ降ったからねえ。ガレージ掘井のウニ横山は、ツーリング区間の中国道では100km/h弱でもハイドロブレーニングでビビってたもんね。ま、それだけ降れば、今はまだ、夜明け頃だから乾いてなくても当然か!?

それ、皆さん昨夜は、「コースが乾いたら、タイヤはとりあえず新品にして、足はこうしよう」とか考えてましたけど、ああ残念。ウェットのT1を走ったことのあるのはマッキーくらいのもんだから、このアタックは荒れそうだな。それで、タイムアタックに入ろうか。まず、チューナー集団を4台ずつのAグループとBグループのふたつに分ける。これは、コースコンディションも考え、とにかくクルマ同士の事故がないようにしたいし、クリアな状態で思いっきり走ってもらおう、ということ。で、Aグループはガレージ掘井、圭オフィス、ブリッツ、Da i。BグループはHKS関西、トリアル、マインズ、レイズ、と分けられた。そして、Bグループには大阪から来てくれた、読者チャレンジャーの川井英樹くん(S13シルビア)もチューナーに混じってアタックだ。

それぞれアタックの時間は、15分間が2回。その前に、マシンのコンディションをみるために30分のフリー走行が設けられた。しかし、まあ、さすが。みんな気合が入っているだけあって、サスペンションのセッティングやタ

イヤの交換に余念がない。ピットにクルマを入れたのはまだ車の空も暗いうちに、全車ボンネットを開けたりウマでクルマを上げたりしているもんね。その気合が走りになるか。いざアタックに入ると、さすが日頃からサーキットを走り込んだりしているだけあって、各チューナーはスピンすることなく攻めている。が、な、な、なんと、Da iはコースに飛びだすと、ピットレーンからそのままコーナーのサンドトラップへとまっしぐら! 最初のコーナー進入のブレーキングでタイヤをロックさせ、まるでゴルフのごとく、飛距離が出すぎてバンカーに入ってしまったのだ。

さ、そんなこんなでタイムアタック終了。結局、トップはトリアル

一方のマッキーはT1の走行経験の豊富さを生かして攻めまくっている。現実的には、アツくなっているとはいえない理性派のニヤ倉クラゾーだけに、そんな心配は必要なかったが、このウェット路面に手を焼き、いまちタイムが伸びない。

一方のマッキーはT1の走行経験の豊富さを生かして攻めまくっている。現実的には、アツくなっているとはいえない理性派のニヤ倉クラゾーだけに、そんな心配は必要なかったが、このウェット路面に手を焼き、いまちタイムが伸びない。

一方のマッキーはT1の走行経験の豊富さを生かして攻めまくっている。現実的には、アツくなっているとはいえない理性派のニヤ倉クラゾーだけに、そんな心配は必要なかったが、このウェット路面に手を焼き、いまちタイムが伸びない。